

個別事業(取組)評価				
事業No.	1	施策の柱への位置付け	柱① 学校・学級改革	
事業名称	外国語教育推進プラン		担当課	小中学校課
			当初予算額(千円)	9,388
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	7,803

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 ◆ 小学校 ・本年度から全面実施になっている外国語活動の授業づくりに課題がある(教員の指導力向上、指導計画及び教材・教具の整備等)。 ◆ 中学校 ・到達度把握調査(中2対象)の結果から中学生の英語の学力に課題がある(H22年度正答率全国比0.88)。特に、「表現の能力」である「書くこと」が弱い。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 到達度把握調査(H23年度)の結果において、教科総合正答率指数は、中学2年全国比0.91、中学3年全国比0.85であった。
		【要因】 ◆ 小学校 ・外国語活動の授業イメージがつかめていない。 ・校内研究の組織的な取組が弱い。 ◆ 中学校 ・4技能を統合した活動や知識・技能を活用した授業づくりができていない。 ・基礎的・基本的な内容の定着ができていない。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 到達度把握調査(H23年度)の結果において、観点別正答率指数のうち、特に表現の能力が全国比で中学2年:0.85、中学3年:0.76と、課題が大きい。
②	目標(Outcome)	◆ 小学校 ・外国語活動の授業において、教材研究や教材活用の工夫を行った授業実践を行う。 ◆ 中学校 ・英語学力を全国水準に近づける。 ・英語ライティングシートの活用率→100% ・英語パイロットスクール実践研究指定校において、「共通テストの「表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」の観点でA評価の割合を5%以上増加させる。	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>) 小学校において、具体的な目標を設定していなかった。
		【検証(比較)方法】 ◆ 小学校 ・学校訪問時の授業参観や公開授業により把握 ◆ 中学校 ・教科ミドルリーダー育成事業(外国語部会)の授業力総合診断シートや研究報告書 ・平成24年度到達度把握調査結果 ・英語ライティングシートの活用状況調査 ・共通テスト(県教育委員会作成)	エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>) ◆ 小学校 ・定期的に教育事務所が学校を訪問し、小学校外国語活動モデルプランを活用した、指導方法の工夫改善などの指導・助言を行っているが、検証方法を具体的に設定していなかったため、達成状況を把握できていない。 ◆ 中学校 ・到達度把握調査における教科総合正答率は、平成20年度より着実に向上しており、全国水準に近づきつつある。 H20:0.84⇒H21:0.86⇒H22:0.88⇒H23:0.91 ・英語ライティングシートの活用率は94%(平成24年1月現在)であった。市販教材を使用している等の理由で活用できていない学校(15校)も、今後活用予定である。 ・パイロットスクール実践研究校で実施した共通テストの結果、「表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」におけるA評価の割合が、前期実施と比べ10%以上増加した。 <A評価の割合(6月→2月)> 中2(23% → 37%)、中3(30% → 40%)
③	実施内容(Input・Output)	◆ 小学校 ・学校訪問における外国語活動についての指導・助言 ・小学校外国語活動モデルプランの普及・啓発 ・(教育センター主催)小学校外国語活動研修 ◆ 中学校 ・中学校外国語モデルプラン作成・配付 ・中学校英語ライティングシート作成・配付 ・平成23年度到達度把握調査の実施 ・英語パイロットスクール実践研究指定校での実践研究(指定校:安芸中、大豊町中、須崎中、高岡中、中村中)	オ 計画通り実施されていたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 小学校 ・教育事務所の学校訪問による指導・助言(延べ46回) ・小学校外国語活動研修を実施(教育センター主催)ステージⅠ 6月 9日(48人)、ステージⅡ 7月25日(53人) ◆ 中学校 ・中学校外国語モデルプランの作成・配付(H23年12月) ・中学校英語ライティングシート及び活用事例集を作成・配付(H23年8月) ・平成23年度到達度把握調査の実施(H23年4~5月) ・英語パイロットスクール実践研究指定校での実践研究の実施
		総合評価と今後の方向 目標達成度 C 「No」を選択した項目 ウ、エ 【総合評価】 ◆ 到達度把握調査の結果から、中学生の英語学力は向上しているものの、全国水準までには達していない。特に、表現の能力に関しては、依然として全国水準との差が大きい。 ◆ 研究指定校では、ライティングシートの活用や公開授業などにより、教員の授業力は着実に向上し、共通テストの結果にも成果が現れている。 ◆ 全ての中学校で、英語ライティングシートの活用徹底を図る必要がある。 ◆ 小学校においては、具体的な目標を設定したうえで、小学校外国語モデルプランを活用し、授業力の向上を図る必要がある。	【今後の方向】 ◆ 小学校においては、児童が質の高い外国語活動の授業を受けることができるように、訪問指導を通じてモデルプランの徹底を図る。 ◆ 中学校においては、生徒の英語力の検証と指導改善の徹底を図るとともに、ライティングシートの授業や家庭学習での活用を促進する。 ◆ 英語教育特例校において、10年後を見据えた早期英語教育の研究に対する支援を行い、広く県内の小・中学校に普及する。